

3. 専門分野

1) 専門分野の構築の考え方

専門分野は、看護の対象である人々のくらしの多様性の理解を基盤にするため、すべてに共通する科目として「地域・在宅看護論」を位置付けた。科目は人々のくらしを理解する「地域とくらし」と概論、方法論で構成し、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅での看護実践の基礎を学ぶ内容とした。終末期看護も含め、在宅での基礎的技術を身につけ多職種と協働する中での看護の役割を理解する内容とした。

基礎看護学では基礎分野・専門基礎分野をもとに、看護を学ぶ専門職業人として、科学的思考に基づいた看護実践が行えるための基礎となる事柄を学習する。また、看護を学ぶ初学者のため、看護の知識、技術、倫理的態度を身につけ、発展的に学び続けていくための動機づけの役割を担う。

看護の主要概念、看護の対象を理解し、あらゆる健康のレベルにある人々に心を傾けることができる看護の専門職業人としての態度を形成していきける基礎的知識を概論で、基本的看護を構成する諸活動を実践できるための技術を共通基本技術Ⅰ～Ⅲ、生活援助技術Ⅰ・Ⅱ、診療補助技術Ⅰ～Ⅲで習得するよう構成した。また、臨床判断能力を強化するためのフィジカルアセスメント、経験を通して自らの学びを深められ主体的学習に繋がられる方法としてリフレクションを科目とした。看護技術は演習を多く取り入れ、事例に基づき、対象の個性性に応じた看護展開ができるように、学習、実践、振り返りにより自ら考え、主体的に学習する習慣を身につける方法とした。看護の目的を果たすためのコミュニケーション能力、アセスメント能力、問題解決能力が養えるような内容とした。

看護の対象の各発達段階や領域で共通する内容について重複を避け、本質的な援助を学習するため、領域横断科目として「健康状態別看護」7科目を置いた。各発達段階における発達課題と健康問題およびその支援を「健康支援論」、健康回復過程各期の支援を「健康回復支援論」、「薬物療法と看護」、「周手術期と看護」、「終末期と看護」、「臨床判断」、「看護過程」とした。科目の内容は各領域の対象を取り上げた学習とする。

成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の看護の対象の特性と看護を理解する5つの領域を設定した。臨地場面での看護に必要とされる知識・技術について学ぶため概論と方法論で構成する。

看護の統合と実践は基礎分野、専門基礎分野、専門分野と、積み上げて学習した内容を統合し、看護師として専門性を高め、さらに成長していくための学習をする領域と設定した。保健・医療・福祉の連携の中で看護の役割が拡大する中、チーム医療における多職種連携・協働する上でマネジメントする能力を身に付け、国際的な看護活動や、災害時あるいは救急医療現場において看護の知識や技術が求められることを踏まえ、それらに必要な知識・技術の修得することを目指した。さらに臨地での質の高い看護を提供する上で必要なエビデンスをふまえた看護実践を構築する能力の育成や、生涯学習の観点から看護研究について学ぶ機会とした。看護実践能力を高めるために臨地での看護実践に近い形で知識・技術を統合し、実践するため「臨床看護の実践」では学内演習の充実を図ることとした。同時に多職種連携・協働の意識を高め対象を多様的にとらえることを学ぶために、他職種を目指す学生との協同学習の機会を設定した。

臨地実習では、早期に看護の対象である人々のくらしの場の理解、看護の実践の場の理解を通し、学習の動機づけにする。小児看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅰを臨床での実習の前に配置し、地域で生活する小児・老年を理解することを目的に2年次に設定した。実習全体は知識・技術を実際の場面で応用・発展させ、看護の理論と実践を結び付けて理解できるよう配置した。

「看護の統合と実践」では複数の患者を受け持ち、チームの一員としての役割を学びながら一勤務帯を通した実習を行い、臨地での看護実践により近い形の中で必要な基礎的な知識と技術を統合的に体験的に学べるよう設定した。各看護学実習において、多職種連携・協働の場면을体験できる機会をつくることとした。

2) 専門分野の構成

	領域名	単位数	科目名
専門分野 領域 59 単位 (2020 時間) + 領域横断科目 7 単位 (210 時間)	基礎看護学	15 単位 (455 時間)	看護学概論 共通基本技術Ⅰ 共通基本技術Ⅱ 共通基本技術Ⅲ 生活援助技術Ⅰ 生活援助技術Ⅱ 診療補助技術Ⅰ 診療補助技術Ⅱ 診療補助技術Ⅲ フィジカルアセスメント リフレクション 看護の体験実習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ
	健康状態別看護	7 単位 (210 時間)	健康支援論 薬物療法と看護 周手術期と看護 終末期と看護 健康回復支援論 臨床判断 看護過程の展開
	地域・在宅看護論	9 単位 (290 時間)	地域と暮らし 地域・在宅看護概論Ⅰ 地域・在宅看護概論Ⅱ 地域・在宅看護方法論Ⅰ 地域・在宅看護方法論Ⅱ 地域と暮らし実習 地域・在宅看護論実習Ⅰ 地域・在宅看護論実習Ⅱ
	成人看護学	4 単位 (120 時間) + 下記実習	成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ 成人看護学方法論Ⅱ 成人看護学方法論Ⅲ
	成人・老年看護学 共通実習	6 単位 (270 時間)	成人・老年看護学実習Ⅰ実習 成人・老年看護学実習Ⅱ実習 成人・老年看護学実習Ⅲ実習
	老年看護学	4 単位 (135 時間) + 上記実習	老年看護学概論 老年看護学方法論Ⅰ 老年看護学方法論Ⅱ 老年看護学実習
	小児看護学	5 単位 (180 時間)	小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ 小児看護学実習Ⅰ 小児看護学実習Ⅱ
	母性看護学	5 単位 (180 時間)	母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学方法論Ⅱ 母性看護学実習

	精神看護学	5 単位 (180 時間)	精神看護学概論 精神看護学方法論Ⅰ 精神看護学方法論Ⅱ 精神看護学実習
	看護の統合と実践	6 単位 (210 時間)	臨床看護の実践 看護の統合と実践Ⅰ 看護の統合と実践Ⅱ 看護研究 看護の統合と実践実習

3.専門分野－3) 教授内容

(1) 基礎看護学

基礎看護学構築の考え方

基礎看護学では基礎分野・専門基礎分野をもとに、看護を学ぶ専門職業人として、科学的思考に基づいた看護実践が行えるための基礎となる事柄を学習する。また、看護を学ぶ初学者のため、看護の知識、技術、倫理的態度を身につけ、発展的に学び続けていくための動機づけの役割を担う。

看護の主要概念、看護の対象を理解し、あらゆる健康のレベルにある人々に心を傾けることができる看護の専門職業人としての倫理的態度を形成していける基本的知識を看護学概論で、対象に心からの関心をもち、相手の思いを感じとることができ、対象との人間関係構築しながら、あらゆる看護実践に共通する感染予防、安全・安楽を確保できるための技術を共通基本技術Ⅰ～Ⅲ、多様な場で生活する対象の、その人らしい生活を営むうえでの条件を整えることができるための技術を生活援助技術Ⅰ～Ⅱ、診察・検査・治療、症状・生体管理技術を診療補助技術Ⅰ～Ⅲで習得するよう構成した。また、臨床判断能力を強化するためのフィジカルアセスメント、自己理解・他者理解をし、看護実践の多様性を受け入れ、自らの経験を通して学びを深められ主体的学習に繋がられる方法としてリフレクションを科目とした。看護技術は演習を多く取り入れ、事例に基づき、対象の個別性に応じた看護展開ができるように、学習、実践、振り返りにより自ら考え、主体的に学習する習慣を身につけられる方法とした。また看護の目的を果たすためのコミュニケーション能力、アセスメント能力、問題解決能力が養えるような内容とした。

目 的

対象を生活者として理解し、その人の「生きる力」、「生きようとする力」を引き出し、その人らしい生活を支援していくための看護の知識、技術、倫理的態度を養う。

目 標

- ① 看護の対象を理解し、人間関係構築のための基本的な方法を学び、実践していくことができる。
- ② 看護を展開していくための基本となるヘルスアセスメントの実際について学び、ケアに結び付けていく技術・倫理的態度を養う。
- ③ 看護を実践するための基本となる安全・安楽確保の技術を習得する。
- ④ 看護を実践するための基本的援助方法を学び、援助方法の選択と、実践したことを評価していく能力を養う。
- ⑤ 対象のその人らしい生活を支援するために連携・協働していく多職種を理解し、その中で看護師の果たす役割を考え、実践につなげる能力を養う。
- ⑥ 経験を通して自らの学びを深められるようリフレクションの方法を学び、主体的に学んでいく習慣を身に付けていくことができる。

基礎看護学の構成と科目のねらい

	科目名	単位数 (時間数)	内容
基礎看護学 15単位 455時間	看護学概論	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・看護理論、看護倫理 ・看護の役割と機能 ・看護提供のしくみ ・看護をめぐる制度と政策
	共通基本技術Ⅰ	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・感染防止の技術 ・安全確保の技術 ・苦痛緩和・安全確保の技術
	共通基本技術Ⅱ	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境調整技術 ・活動・休息援助技術
	共通基本技術Ⅲ	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスアセスメント 健康歴とセルフケア能力のアセスメント ・フィジカルアセスメントに必要な技術
	生活援助技術Ⅰ	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・食事援助技術 ・排泄援助技術
	生活援助技術Ⅱ	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔援助技術 ・病床での衣生活の援助技術
	診療補助技術Ⅰ	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・与薬の技術 ・経静脈栄養 ・輸血管理
	診療補助技術Ⅱ	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・症状・生体機能管理技術 ・医療機器 ・診察・検査・処置における技術
	診療補助技術Ⅲ	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸・循環を整える技術 ・創傷管理技術
	フィジカルアセスメント	1単位 (30時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・系統別フィジカルアセスメント ケアにつなげるフィジカルアセスメント
	リフレクション	1単位 (15時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・看護におけるリフレクション ・リフレクションの基本スキル
	看護の体験実習	1単位 (30時間)	臨地実習：4日間 看護活動の場を知る
	基礎看護学実習Ⅰ	1単位 (30時間)	病院実習：4日間 日常生活援助
	基礎看護学実習Ⅱ	2単位 (80時間)	臨地実習：8日間 看護過程の展開

授業科目	看護学概論	講師名	降旗 幹子	単位 1単位	時期 1年次前期
				時間 30時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師・保健師	
科目目標 1. 看護とは何かについて自分の言葉で述べるができる。 2. 看護の対象となる人間について述べるができる。 3. 看護の役割や機能について説明できる。 4. 看護専門職としての基本的な態度について説明できる。 5. 各看護理論の特徴について説明できる					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	看護とは 定義・看護の役割と機能	講義 〈課題1〉	降旗
2	看護の対象とその理解 (1)人間のこことからだ	講義 〈課題2〉	降旗
3	看護の対象とその理解 (2)人間の暮らしと看護	講義 グループワーク	降旗
4	看護の対象とその理解 (3)健康状態と生活	講義	降旗
5	看護の提供者 (1)看護の歴史 (2)看護教育と資格(3)看護職の継続教育とキャリア開発	講義	降旗
6	看護における倫理	講義	降旗
7	看護の提供のしくみ (1)看護サービスの提供の場 (2)看護管理(3)医療安全	講義	降旗
8	看護実践の基盤となる理論 〈課題3〉 (1)看護理論とは (2)F. ナイチンゲール「看護覚え書」①	講義 〈課題3〉 グループワーク	降旗
9	看護実践の基盤となる理論 (2)F. ナイチンゲール「看護覚え書」② 他	講義 グループワーク	降旗
10	看護実践の基盤となる理論 (3)V. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」 /ウィーデンバック	講義 グループワーク	降旗
11	看護実践の基盤となる理論 (4)D. E. オレム「オレム看護論」	講義 グループワーク	降旗
12	看護実践の基盤となる理論 (5)C. ロイ「ロイ看護論」/ロジャーズ、キング	講義 グループワーク	降旗
13	看護実践の基盤となる理論 (6) ペプロウ「人間関係の看護論」/オーランド、トラベルビー	講義 グループワーク	降旗
14	看護実践の基盤となる理論 (7) ベナー「ベナー看護論」/ホール、ワトソン	講義 グループワーク	降旗
15	筆記試験 (90分)		降旗

テキスト・評価方法・留意点等

<p>テキスト等</p>	<p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茂野香おる他著：系統看護学講座専門分野 I 看護学概論, 医学書院, 2022 2. フロレンス ナイチンゲール/薄井坦子他訳：看護覚え書改訳第 7 版, 現代社, 2011 3. 金井一薫著：新版 ナイチンゲールの『看護覚え書』 イラスト・図解でよくわかる!, 西東社, 2021 4. 城ヶ端初子著：やさしい看護理論, メディカ出版, 2005 5. 手島恵監修：看護者の基本的責務 2022 年版 定義・概念/基本法/倫理, 日本看護協会出版会, 2022
<p>評価の方法</p>	<p>筆記試験 50 点 課題 50 点 (課題 1. 2. 3)</p>
<p>アドバイス ・その他</p>	<p>アドバイス： 本科目を通して、今後、展開される看護学全体への興味を高め、自己の看護とは何かの「問い」を考える一歩とする。</p> <p>課題：</p> <p>〈課題 1〉 病気で闘病されている (いた) 患者の手記・闘病記を読んで、レポートする。</p> <p>〈課題 2〉 自己の生活と非常時の準備の振り返りについてまとめる。</p> <p>〈課題 3〉 看護実践の基盤となる理論の講義 7 回分を毎回、指定シートに学んだ事を記載し話し合う。</p>

	3. 感染性廃棄物の取り扱い 4. 針刺し事故防止	
7	1. 感染防止技術の実際 (1) 無菌操作 (2) 消毒	演習
8		
9	1. 医療施設における感染管理 (1) 演習後のリフレクション	講義 グループワーク
10	1. 安全確保の技術（事例から考える） (1) 誤薬防止	講義
11	(2) チューブ類の自己抜去	演習
12	(3) 転倒・転落防止 (4) 薬剤・放射線暴露の防止	講義 グループワーク
13	1. 苦痛の緩和・安全確保の技術 (1) 罨法（温罨法・冷罨法） (2) 身体ケアを通じてもたらされる安楽 ・リラクゼーション法 ・熱布バックケア	講義
14	1. 苦痛の緩和・安楽確保の技術の実際 ・罨法 ・熱布バックケア	演習 グループワーク
15	筆記試験	

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 第 18 版, 医学書院, 2021. 2. 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第 2 版, 医学書院, 2021. <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 吉田みつ子他：写真でわかる基礎看護技術アドバンス, 初版, インターメディアカ, 2021.
評価の方法	<p>筆記試験 60%、課題レポート 10%（「自分のアサーティブネスとそれを妨げる思考」）、演習状況 10%、リフレクションシート 10%、グループディスカッション 10%を総合して評価する。</p> <p>※レポート提出状況（未提出・提出期超過）により減点あり</p>
アドバイス ・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・単元毎に具体的な事前課題を提示する。 ・習得する看護技術、手順、根拠・留意点を手順書にまとめておく。また、該当する看護技術についての教科書付録の動画を十分視聴する。 ・演習後はグループでリフレクションし、その後、個人でリフレクションシートを記入し提出する。

授業科目	共通基本技術 Ⅱ	講師 名	安住 康子 田邊 弓	単位 1単位	時期 1年次前期
				時間 30時間	
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 療養生活の環境を構成する要素を理解し、病床の環境調整技術を習得する。 2. ボディメカニクスの基本原理を理解し、安定した効率的な活動援助技術が習得できる。 3. 安全・安楽な体位変換、移動・移送の援助技術を習得する。 4. 睡眠に関するアセスメントの留意点を理解し、睡眠・休息の援助方法を理解できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 看護師が行う環境調整 2. 療養生活の環境	講義 ディスカッション	安住
2	1. 病室の環境のアセスメントと調整 2. ベッド周囲の環境調整	講義	
3	1. ベッド周囲の環境調整と病床を整える技術の実際 (1) ベッド周囲の環境調整 (2) ベッドメイキング (3) 臥床患者のリネン交換	演習	
4			
5			
6			
7	1. ベッド周囲の環境調整と病床を整える技術 (1) 演習後のリフレクション	講義 グループワーク	
8	1. 基本的活動の基礎知識 (1) 姿勢とボディメカニクス (2) 基本体位と特殊体位	講義 演習	田邊
9	1. 移動援助技術（体位変換・歩行・移乗・移送）の 基礎知識 2. 移動援助技術の実際 (1) 体位変換 (2) 歩行援助 (3) 車椅子の移乗・移送 (4) ストレッチャーの移乗・移送	講義 演習	
10			
11			
12			
13	1. 移動援助技術 (1) 演習後のリフレクション (2) 事例から考える活動援助技術	講義 グループワーク 演習	
14	1. 人間にとっての睡眠と休息 2. 睡眠障害について 3. 睡眠・休息の援助	講義 グループワーク	
15	筆記試験		安住 田邊

テキスト・評価方法・留意点等

<p>テキスト等</p>	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 任 和子他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第 18 版, 医学書院, 2021. 2. 茂野香おる他著：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 第 18 版, 医学書院, 2021. 3. 宮脇美保子他著：新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 第 3 版 メヂカルフレンド社, 2021. 4. 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院 第 2 版, 医学書院, 2021. 5. 金井一薫：ナイチンゲールの『看護覚書』イラスト・図解でよくわかる 東西社, 2014.
<p>評価の方法</p>	<p>安住 (50 点)、田邊 (50 点) 筆記試験 70%、課題レポート 10%、演習状況、リフレクション 10%、グループワーク 10%</p>
<p>アドバイス ・その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元毎に具体的な事前課題を提示する。 ・習得する看護技術、手順、根拠・留意点を手順書にまとめておく。また、該当する看護技術についての教科書付録の動画を十分視聴する。 ・演習後はグループでリフレクションし、その後、個人でリフレクションシートを記入し提出する。

授業科目	共通基本技術 Ⅲ	講師名	安住康子	単位 1単位	時期 1年次前期
				時間 30時間	
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 生命維持の基本となる生理的变化を把握するための基本的技術を習得する。 2. バイタルサインの正常値や変動因子がわかる。 3. バイタルサインを正確に測定することができる。 4. フィジカルアセスメントの意義がわかる 5. フィジカルアセスメントに必要な技術を習得する。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. ヘルスアセスメント (1)ヘルスアセスメントが持つ意味 (2)ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの関係性 (3)ヘルスアセスメントにおける視点	講義	安住
2	1. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント (1)問診の技術 (2)健康歴聴取の目的と実際 (3)セルフケア能力のアセスメントの目的	講義	
3	1. セルフケア能力のアセスメントの実際 (1)ヘンダーソンの理論の枠組みを利用 (2)情報の整理	演習	
4			
5	1. 情報の関連性の分析 演習後のリフレクション	講義 グループワーク	
6	1. フィジカルアセスメントに必要な技術 (1)質・量を兼ね備えた情報 主観的情報と客観的情報の収集 (2)コミュニケーション技術を活用した視診、触診、聴診、打診の方法 (3)全身状態、全体印象の把握	講義 グループワーク	
7	1. バイタルサインの観察とアセスメント (1)体温、脈拍、呼吸、血圧の基礎知識 (2)意識に関する基礎知識 JCS、GCS	講義	
8	1. バイタルサイン測定の実際（事例から考える） (1)体温、脈拍、呼吸、血圧測定 (2)意識の観察の方法	演習	
9			
10			
11	1. バイタルサインの観察とアセスメント 演習後のリフレクション	講義	
12	1. ヘルスアセスメントにおける計測 (1)身長、体重、腹囲、皮下脂肪厚の計測の目的と方法 (2)計測値(身長・体重・腹囲・皮下脂肪厚)の活用	講義	

13	1. 計測の実際 (1)身長、体重、腹囲、皮下脂肪厚	演習	
14			
15	筆記試験		安住

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 第 18 版, 医学書院, 2021. 2. 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院 第 2 版, 医学書院, 2021. 3. 守田美奈子他：写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント, 初版 インターメディカ, 2020
評価の方法	筆記試験 70 点、演習状況 10 点、リフレクションシート 10 点、グループワーク 10 点
アドバイス ・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・習得する看護技術、手順、根拠・留意点を手順書にまとめておく。また、該当する看護技術についての教科書付録の動画を十分視聴する。 ・演習後はグループでリフレクションし、その後、個人でリフレクションシートを記入し提出する。

授業科目	生活援助技術 I	講師名	森本深青子 中山里美	単位	1 単位	時期 1 年次前期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントの方法を理解し、対象に合わせた方法での食事援助の具体的方法を習得する。 2. 排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法を理解し、対象に合わせた方法での排泄援助の具体的方法を習得する。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 人間にとっての栄養・排泄の意義 2. 栄養・排泄が障害されるということ 3. 栄養・排泄の障害が日常生活に及ぼす影響 栄養・排泄に障害がある患者への看護	講義 ディスカッション	森本
2	1. 食事援助にともなうアセスメントの視点とアセスメントに必要な知識 2. 摂食・嚥下 摂食・嚥下の解剖と摂食嚥下の過程	講義	
3	1. 食事援助の基礎知識	演習	
4	2. 食事援助の実際(嚥下障害のある患者を除く) (事例から考える)		
5	1. 非経口的栄養摂取 (1)援助の基礎知識 (2)経鼻経管栄養 (3)胃ろうからの栄養剤注入	講義	
6	1. 非経口的栄養摂取の実際(モデル人形で実施) (1)経鼻経管栄養チューブの挿入	演習	
7	(2)経鼻経管栄養における栄養剤注入 (3)胃ろう管理の実際 (4)胃ろうからの栄養剤注入 (液状・とろみ状・半固形流動食)		
8	1. 排泄援助にともなうアセスメントに必要な知識 (1)排泄器官の機能と排泄のメカニズム (2)排尿・排便のアセスメント (3)移動動作のアセスメント (4)心理・社会状態のアセスメント	講義	中山
9	1. 自然排尿・自然排便の介助の実際 (事例から考える)	演習	
10	(1)トイレ、ポータブルトイレにおける排泄介助 (2)床上排泄援助 (3)おむつによる排泄援助(おむつ交換)		

11	1. 導尿・排便を促す援助 (1)排泄援助の方法と解剖学的位置関係 (2)排泄援助の方法 ・ 一時的導尿と持続的導尿 ・ 便秘改善のための看護ケア ・ 浣腸と摘便	講義	中山
12	1. 導尿・排便を促す援助の実際（モデル人形） (1)膀胱留置カテーテル挿入と管理 (2)浣腸 (3)摘便	演習	
13			
14	1. 対象に合わせた栄養・排泄援助 演習後のリフレクション	講義 グループワーク	森本 中山
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 任 和子：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第 18 版, 医学書院, 2021. 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院 第 2 版, 医学書院, 2021. 宮脇美保子他：新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 第 3 版 メヂカルフレンド社, 2021. 關戸啓子他：ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ち④ 臨床栄養学 第 5 版, メディカ出版, 2021
評価の方法	<p>A+B=100 点</p> <p>A：森本：50 点＝筆記 30 点＋レポート・演習等・GW・リフレクション 20 点</p> <p>B：中山 50 点：＝筆記 30 点＋レポート・演習等・GW・リフレクション 20 点</p> <p>※レポート提出状況（未提出・提出期超過）により減点あり</p>
アドバイス ・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元毎に具体的な事前課題を提示する。 ・ 習得する看護技術、手順、根拠・留意点を手順書にまとめておく。また、該当する看護技術についての教科書付録の動画を十分視聴する。 ・ 演習後はグループでリフレクションし、その後、個人でリフレクションシートを記入し提出する。

授業科目	生活援助技術 Ⅱ	講師名	安住康子	単位	1 単位	時期	1 年次通年
				時間	30 時間		
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師			
科目目標 1. 清潔援助の方法選択の視点を理解し、対象に合わせた清潔援助技術を習得する。 2. 病床での衣生活の基礎知識を理解し、対象に合わせた衣生活を整える援助技術を習得する。							

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 清潔援助の基礎知識 (1)皮膚・粘膜の構造と機能 (2)口腔内の構造と機能 (3)清潔援助の効果 2. 対象に合わせた援助方法の決定と留意点 (1)清潔援助について考える (2)方法選択の視点	講義 ディスカッション	安住
2	1. 入浴・シャワー浴援助の基礎知識 2. 全身清拭援助の基礎知識 3. 洗髪援助の基礎知識 4. 整容(洗面、眼・耳・鼻の清潔、爪切り、ひげそり)の基礎知識 5. 口腔ケア援助の基礎知識	講義	
3	1. 手浴・足浴援助の基礎知識 2. 陰部洗浄の援助の基礎知識 3. 口腔ケア援助の基礎知識	講義	
4	1. 病床での衣生活についての基礎知識 2. 熱発生と熱放散 3. 被服気候 4. 衣生活に関するニーズのアセスメント 5. 対象に合わせた衣服の選び方 6. 寝衣交換の方法	講義	
5	1. 全身清拭、寝衣交換、陰部洗浄の実際	演習	
6	2. 洗髪、整容(洗面、眼・耳・鼻の清潔、爪切り、ひげそり)の実際		
7	(事例から考える)		
8			
9			
10	1. 手浴の実際	演習	
11	2. 足浴の実際		
12	(事例から考える)		

13	1. 口腔ケアの実際（事例から考える）		
14	1. 看護師が行う清潔援助 演習後のリフレクション	講義 グループワーク	
15	筆記試験		安住

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <p>1. 任 和子他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第 18 版, 医学書院, 2021.</p> <p>2. 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 第 2 版 医学書院</p>
評価の方法	筆記試験 70 点、演習状況 10 点、リフレクションシート 10 点、グループワーク 10 点
アドバイス ・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・習得する看護技術、手順、根拠・留意点を手順書にまとめておく。また、該当する看護技術についての教科書付録の動画を十分視聴する。 ・演習後はグループでリフレクションし、その後、個人でレフレクションシートを記入し提出する。

授業科目	診療補助技術 I	講師名	森本 深青子	単位	1 単位	時期 1 年次通年
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 薬物の効果が安全に生体に作用するための与薬に関する基本的知識を習得する 2. 正確で安全な与薬を行うための援助方法が理解できる 3. 薬物療法における看護師の役割が理解できる						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 薬物療法の意義 2. 薬物の基本的性質 3. 薬物療法における看護師の役割	講義	
2～5	1. 経口与薬・口腔内与薬・吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬	講義 演習 講義	
6～9	1. 注射法の実際 1) 注射の基礎知識 2) 注射の実施法（皮下注射・皮内注射・筋肉内注射） 【演習内容】 皮下注射・筋肉内注射の援助の実際,アンブルカット	講義 演習 講義	
10～ 13	1. 静脈内注射の援助の実際 1) ワンショット援助の実際 2) 点滴静脈内注射 3) 中心静脈カテーテル留置の介助 4) 経静脈栄養 【演習内容】 静脈内注射の援助の実施,バイアルの薬品の吸い上げ	講義 演習 講義	
14	1. 輸血管理 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	講義	
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 篠崎郁他著：系統看護学講座 専門1 基礎看護学技術Ⅱ,医学書院 2. 任 和子ほか編集：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術,医学書院.
評価の方法	筆記試験 70 点、レポート 10 点、演習状況 10 点、リフレクションシート 10 点 ※レポート提出状況（未提出・提出期超過）により減点あり
アドバイス ・その他	・習得する看護技術、手順、根拠・留意点を手順書にまとめておく。また、該当する看護技術についての教科書付録の動画を十分視聴する。

授業科目	診療補助技術 Ⅱ	講師名	安住 康子 森本 深青子	単位	1 単位	時期 1 年次後期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 検体検査について理解し、検査を受ける対象の援助技術を習得する。 2. 生体情報のモニタリングの意義と看護の役割を理解する。 3. 医療機器を必要とする対象の援助技術を習得する。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	1. 医療機器の種類とその進歩 2. 医療機器の安全管理 3. 医療機器を必要とする患者の日常生活の援助	講義	安住
2～4	1. 心電図検査 2. 心電図モニター 3. パルスオキシメーター 4. 血管留置カテーテルモニター	講義 演習	安住
5～8	1. 診察の介助 検査・処置の介助	講義・発表 グループワーク	森本
9 ～ 13	1. 血液検査 2. 尿検査 3. 便検査 4. 喀痰検査	講義 演習	安住
14	1. 輸液ポンプの使用方法和基本的操作 2. シリンジポンプの使用方法和基本的操作	講義 演習	森本
15	筆記試験		安住 森本

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院 2. 宮脇美保子他著：新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論, メジカルフレンド社 3. 任 和子・井川順子・秋山智弥編集：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院 4. 本庄恵子, 吉田みつ子監修：写真でわかる臨床看護技術②アドバンス, インターメディカ
評価の方法	A+B=100 点 A：医療機器・検査：60 点（筆記 50 点 レポート・演習等 10 点） B：診療補助 40 点（筆記 20 点 グループワーク・発表・演習等 20 点）
アドバイス ・その他	

授業科目	診療補助技術 Ⅲ	講師名	安住康子	単位	1 単位	時期	1 年次後期
				時間	30 時間		
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師			
科目目標 1. 呼吸障害、循環障害の特徴を理解することができる。 2. 呼吸・循環状態のアセスメントの方法と、呼吸・循環を整える援助の方法を習得する。 3. 体温調節機能について理解し、体温管理の援助技術を習得する。 4. 末梢循環促進ケアの目的と方法を理解し、対象に合わせた援助の方法を習得する。 5. 創傷管理の基本的知識・技術を理解し、対象に合わせた援助の方法を習得する。							

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 呼吸・循環が障害されるということ 2. 呼吸・循環障害が日常生活に及ぼす影響 (1) 生命の危機 (2) 活動耐性の低下と活動範囲の縮小 (3) 自尊感情・自己概念	講義 ディスカッション	安住
2	1. 酸素療法 援助の基礎知識 (1) 中央配管式と酸素ボンベによる方法 2. 排痰ケア 援助の基礎知識 (1) 体位ドレナージ (2) 咳嗽介助・ハフティング (3) 吸引（口腔内・鼻腔内吸引・気管内吸引） (4) 吸入（ネブライザーを用いた気道内加湿）	講義	
3	3. 体温管理、末梢循環促進ケア (1) 発熱時の援助 (2) うつ熱時の援助 (3) 低体温時の援助 (4) 弾性ストッキング、弾性包帯 (5) 下腿マッサージ		
4	1. 酸素吸入療法の実際 (1) 中央配管式 (2) 酸素ボンベ	演習	
5	2. 排痰ケアの実際 (1) 体位ドレナージ (2) 吸入（ネブライザーを用いた気道内加湿） (3) 口腔内・鼻腔内吸引 (4) 気管内吸引（気管切開部からの吸引） (事例から考える)		

6	1. 体温管理の実際 (1)発熱時の援助(湯たんぽ、氷枕、氷嚢などの局所冷却材)	演習	
7	(2)うつ熱時の援助 (3)末梢循環促進ケア 弾性ストッキング、弾性包帯 (事例から考える)		
8	1. 呼吸・循環を整える技術 演習後のリフレクション	講義 グループワーク	
9	1. 創傷管理の基礎知識 (1)創傷治癒過程とそのメカニズム (2)汚染創と感染創 (3)創傷治癒の種類 2. 創傷治癒のための環境づくり (1)創面の環境調整 (2)創の消毒と洗浄 3. 包帯法 (1)包帯法の目的と種類 (2)包帯の巻き方 (3)三角巾を用いた上肢の固定方法	講義	
10	1. 創傷処置の実際	演習	
11	2. 包帯法の実際		
12	1. 褥瘡予防 (1)褥瘡の発生要因 (2)褥瘡の好発部位 (3)褥瘡のリスクアセスメント (4)体圧分散寝具の種類 2. 褥瘡予防援助の方法 (1)体位変換 (2)ポジショニング (3)スキンケア (4)座位時の褥瘡予防 姿勢変換 基本座位姿勢の保持	講義	
13	1. 褥瘡予防援助の実際(体圧分散ケア) (1)体位変換 スモールチェンジ法 (2)ポジショニング 踵骨部の除圧 ずれ力の排除	演習	
14	1. 褥瘡予防 演習後のリフレクション	講義 グループワーク	
8	筆記試験		安住

テキスト・評価方法・留意点等

<p>テキスト等</p>	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 任 和子他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第 18 版, 医学書院, 2021. 2. 宮脇美保子他：新体系看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 メジカルフレンド社, 第 3 版, 2021. 3. 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 第 2 版, 医学書院, 2021. 4. 本庄恵子他：写真でわかる臨床看護技術②アドバンス, 初版, インターメディアカ, 2021.
<p>評価の方法</p>	<p>筆記試験 60 点、課題レポート 10 点、演習状況 10 点、リフレクションシート 10 点、グループワーク 10 点</p>
<p>アドバイス ・その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元毎に具体的な事前課題を提示する。 ・習得する看護技術、手順、根拠・留意点を手順書にまとめておく。また、該当する看護技術についての教科書付録の動画を十分視聴する。 ・演習後半グループでリフレクションし、その後、個人でリフレクションシートを記入し提出する。

授業科目	フィジカル アセスメント	講師名	中山 里美		単位	1 単位	時期	1 年次後期
					時間	30 時間		
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師				
科目目標 1 人体機能構造論の既修知識をもとに、何を観察・測定すればよいのかが理解できる。 2 フィジカルアセスメントの基本技術が習得できる。 3 得られた情報からどう考えて、わかったことから看護援助につなげる、という流れを理解できる								

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	1. フィジカルアセスメントの実際 観察と技術→得られた情報からわかること→看護援助につなげる この流れを意識して臨む	講義・ 動画視聴 演習	
2	2. 系統別フィジカルアセスメント 1) 呼吸器系 呼吸音の聴取・胸部の打診		
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10	3) 乳房・腋窩 4) 腹部 腸蠕動音聴取・触診・ブルンベルグ兆候の確認		
11			
12	5) 筋・骨格筋系 関節可動域・MMT		
13	6) 神経系 バレー徴候・痛覚・反射 7) 頭頸部と感覚器(眼・耳・鼻・口) 瞳孔計測と反射・ウェーバーテスト・リンネテスト 8) 皮膚・爪		
14	3. 最終まとめ リフレクション: 得られた情報からわかること、得られた情報を看護援助につなげる、この流れが理解できたかを振り返る	レポート	
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茂野香おる他：系統看護学講座, 専門分野 I, 基礎看護学②, 基礎看護技術 I, 医学書院. 2020. 2. 任 和子他：系統看護学講座, 専門分野 I, 基礎看護学③, 基礎看護技術 II, 医学書院. 2020. 3. 守田美奈子監修：写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント アドバンス, インターメディカ. 2021. 4. 任 和子他編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院. 2021.
評価の方法	<p>評価 筆記試験：70 点 演習時ワークシート（事前・事後学習を含む）：30 点</p>
アドバイス ・その他	

授業科目	リフレクション	講師名	山根美智子	単位	1 単位	時期	1 年次通年
				時間	15 時間		
実務経験のある講師による授業科目	○	実務経験	看護師				
科目目標 1. 経験のリフレクションの習慣を身につけることができる。 2. 経験したことをリフレクションすることにより、経験知を積み重ねることができる。 3. 主体的に学習に取り組み、継続的に学び続ける意思を持つことができる。							

授業内容と方法

回数	授業内容	方法	担当
1	1. 看護におけるリフレクションとは (1) 経験（実践知）を振り返るプロセス (2) 看護におけるリフレクション学習 2. リフレクションの学習サイクル (1) ギブスのリフレクション学習サイクルモデル 3. リフレクション学習の基本ステップ (1) 自己の実践における経験を記述する (2) 批判的に分析する (3) 評価する (4) 総合する	講義 ディスカッション	山根
2	1. リフレクション学習を始めるための準備 2. 基本となるスキルとそのトレーニング 3. 自己の気づきを促す (1) 自己の価値観を知る (2) 自己理解、他者理解の促進 (3) 多様性の受け入れ 4. 状況・場面の描写（描写のスキル） (1) 経験を他者に伝える力の促進	講義 演習 グループ討議	山根 1 年生 担任
3	1. 批判的に分析する（看護技術演習場面） (1) 批判的思考のプロセス ・看護技術演習場面の記述	講義 演習	山根 1 年生 担任
4	・情報の明確化、情報の分析、推論、行動決定 (2) 批判的分析の視点 ・既存の知識の確認		
5	・看護技術演習場面での自分の感情の認識 (3) 評価 ・看護技術演習における強みや弱みの明確化 ・学習課題の明確化と学習計画		
6	1. 看護技術演習場面のグループリフレクション (1) 看護実践をナラティブに語る (2) 自己の価値観、考え方を振り返る (3) 共有による視点の広がりを経験	グループ討議	山根 1 年生 担任
7			
8	2. 基礎実習の場面のリフレクションの再構成		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <p>1. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 第 18 版, 医学書院, 2021.</p> <p>参考書</p> <p>1. 田村由美他：看護のためのリフレクシヨンスキルトレーニング 第 I 版 看護の科学者, 2017.</p>
評価の方法	ループリック評価 80 点、提出物（リフレクションシート等） 20 点
アドバイス ・その他	<p>・看護技術演習や日常生活での経験を意識的に振り返る習慣をつけていきましょう。自分自身を客観的にみて、うまくいっていること、うまくいっていないことの原因を分析することで次の行動に活かしていくことができます。</p>

3.専門分野－3) 教授内容

(2) 健康状態別看護

健康状態別看護 構築の考え方

健康状態別看護では、領域横断科目として「健康状態別看護」7科目を置いた。

対象者の健康状態に対して、各発達段階・各科目で学修した知識を関連させながら問題解決法を修得し、本質的な看護実践力をつけることをねらいとしている。

各発達段階における発達課題と健康問題およびその支援を「健康支援論」、健康回復過程各期の支援を「健康回復支援論」、「薬物療法と看護」、「周手術期と看護」、「終末期の看護」、「臨床判断」、「看護過程」とした。科目の内容は各領域の対象を取り上げている。

テキストは各領域に渡る複数文献を網羅的に活用できるよう、電子書籍を有効活用しながら、必要な知識を導き出していく。情報科学で学修したICT能力を駆使していく機会にもなる。

健康状態別看護の構成と科目のねらい

科目名	単位数 (時間数)	ねらい
健康支援論	1単位 (30時間)	各発達段階の発達課題と健康問題、その人らしく生きることの支援を理解し、具体的な援助がわかる。
薬物療法と看護	1単位 (30時間)	健康状態が逸脱した多くの場合に行われる薬物療法が効果的なものとなるよう、各発達段階、各健康回復過程の薬物療法を受ける対象への支援を学ぶ。
周手術期と看護	1単位 (30時間)	各発達段階の対象の周手術期における身体侵襲と回復過程を理解し、各発達段階の対象に合わせた周手術期に必要な看護について理解する。
終末期と看護	1単位 (30時間)	「各発達段階の終末期の対象の身体的・精神的特徴を知り、死にゆく人やその周囲の人が望む死を迎えるための方法を考える。 緩和ケア・死の受容プロセスを知り、終末期の看護の役割について理解する。 グリーフケアについて学習する。 自己の死生観を深める。
健康回復支援論	1単位 (30時間)	各発達段階の患者の急性期、回復期、慢性期における患者及び家族の理解と看護、各健康回復過程のリハビリテーションと看護、退院支援における看護の役割を理解する。
臨床判断	1単位 (30時間)	各発達段階の患者に対する「いつもと違う」場面の気づきからの看護師の臨床判断プロセスを理解する。 臨床判断モデルを用い「苦しい」という場面の「気づき」・「解釈」、「反応」「省察」についてディブリーフィングガイドによる思考の振り返りにより、看護師のよように考えることを学ぶ。
看護過程の展開	1単位 (30時間)	各発達段階の対象理解の方法、看護の思考過程（観察・アセスメント・看護問題の明確化、看護計画立案・実施・評価）について学習する。看護過程とクリティカルシンキングについて理解する。 各発達段階の対象事例の看護過程の展開を考える。

授業科目	健康支援論	講師名	福岡真利奈	単位	1 単位	時期	1 年次後期
				時間	30 時間		
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師			
科目目標 1. ライフステージ各期の発達課題と健康問題が理解できる 2. ライフステージ各期の健康を支援する必要性が理解できる							

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 発達段階における課題 (1) 成熟と学習 (2) 生涯発達 (3) 発達と成熟、老年的超越 (4) 家族の発達課題	講義 グループワーク	福岡
2	1. 社会の変化 (1) 少子高齢化 (2) 家族形態の多様化 (3) 女性の就業率上昇 (4) 家族意識・役割の変化 2. メンタルヘルス 3. ヘルスプロモーション 4. 老年期の健康	講義	福岡
3 4 5	1. 生活習慣獲得と健康問題 各ライフステージにおいて、どのような生活や環境が健康問題に繋がっていくのかグループで考える (1) 肥満、高血圧 (2) 歯周病、近視 (3) 自殺、ひきこもり	講義 グループワーク 発表	福岡
6	1. 大人の健康行動のとらえ方 (1) 大人の学習 (2) 学習に基づく行動形成 2. 行動変容を促進するアプローチ (1) トランスセオレティカモデル (2) 自己効力感 (3) 強みを活かすためのアプローチ (4) ストレングスモデル (5) ヘルスビリーフモデル	講義	福岡
7	1. 健康支援の方法 (1) 主体的な健康づくり (2) 健康づくりに関わる因子 (3) 主体的な健康づくりに関わる支援 (4) 主体的な健康づくりのための支援 2. 集団指導と個別指導	講義	福岡

8	<p>1. 働く人の健康管理</p> <p>(1) ワークライフバランス</p> <p>(2) 産業保健</p> <p>2. 子どもを産み育てる人の健康管理</p> <p>(1) リプロダクティブヘルス/ライツ</p> <p>(2) 健康診査</p> <p>(3) 保健指導、訪問指導</p> <p>(4) 育児支援</p> <p>(5) 養育支援</p>	講義	福岡
9	<p>1. こどもの健康管理</p> <p>(1) 学校保健(健康診断、健康相談、感染予防)</p> <p>(2) 予防接種</p> <p>(3) 食育</p> <p>2. 子どもが自分を護れる大人になるための支援</p> <p>(1) 生活習慣の改善</p> <p>(2) 教育(安全、性)と予防教育(生活習慣病、疾病、事故)</p>	講義	福岡
10	<p>1. 老いを生きる</p> <p>(1) スピリチュアリティ</p> <p>(2) エンドオブライフケア</p> <p>(3) 死生観</p> <p>2. 老いをその人らしく生きるための支援</p> <p>(1) 生活と健康を支える職種</p> <p>(2) ソーシャルサポート</p>	講義	福岡
11 12 13 14	<p>1. 主体的に健康を保持していくための具体的な支援を考える。</p> <p>(1) 肥満、高血圧にならないための支援</p> <p>(2) 歯周病、近視にならないための支援</p> <p>(3) 自殺、ひきこもりにならないための支援</p> <p>※健康な状態を保持増進していくために、各ライフステージでどのように支援していくと良いかの提案書を作成する</p>	講義 グループワーク 発表	福岡
15	筆記試験		福岡

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <p>1. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学概論 基礎看護学① 第17版, 医学書院, 2020.</p> <p>2. 小松浩子他：系統講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 第15版, 医学書院, 2020</p> <p>3. 北川公子・荒木亜紀他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2018.</p> <p>4. 奈良間美保他：系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版, 医学書院, 2020.</p> <p>5. 森恵美他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 第13版, 医学書院, 2020</p>
-------	---

	<p>6. 武井麻子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎, 第6版, 医学書院, 2021</p> <p>7. 上別府圭子他：系統看護学講座 地域・在宅Ⅰ, 医学書院, 2022.</p> <p>8. 一般社団法人厚生労働省 国民衛生の動向</p>
評価の方法	筆記試験 80点 ルーブリック評価(授業・グループワークの参加状況、課題等の内容)20点 ※課題提出状況(未提出・提出期限超過)により減点あり
アドバイス ・その他	<p>健康支援論で学んだ内容は、各専門領域で詳しく学習する。知識の活用できるよう</p> <p>参考資料・課題関連資料は AirDrop で共有する。授業参加の際は、必ず iPad を充電し持参すること。</p> <p>※テキストは各領域を含むので、電子書籍を中心に活用する。</p>

授業科目	薬物療法と看護	講師名	井上 南子	単位	1 単位	時期	2 年次通年
				時間	30 時間		
実務経験のある講師による授業科目		○	実務経験	看護師			
科目目標 1. 発達段階の特徴から薬物療法が対象へ及ぼす影響を理解できる。 2. 健康状態（経過）に応じた薬物療法の特徴を理解できる。 3. 薬物療法を受ける対象への支援のあり方を考えられる。							

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	1. 薬物療法の意義 2. 薬物が対象へ及ぼす影響 （薬物動態・作用・副作用・相互作用等） 3. 薬物療法における看護師の役割 4. コンプライアンス、アドヒアランス	講義	井上
2	【切迫流産を例に】	講義	
3	1. 病態理解 2. 薬物療法と支援 （入院から退院および在宅療養におけるまでの経過に応じた薬物療法の実際とその支援）		
4	【小児の喘息発作を例に】	講義	
5	1. 病態理解 2. 薬物療法と支援 （入院から退院および在宅療養におけるまでの経過に応じた薬物療法の実際とその支援）		
6	【成人の心筋梗塞を例に】	講義	
7	1. 病態理解 2. 薬物療法と支援 （入院から退院および在宅療養におけるまでの経過に応じた薬物療法の実際とその支援）		
8	【老年の肺炎を例に】	講義	
9	1. 病態理解 2. 薬物療法と支援 （入院から退院および在宅療養におけるまでの経過に応じた薬物療法の実際とその支援）		
10	【統合失調症を例に】	講義	
11	1. 病態理解 2. 薬物療法と支援 （入院から退院および在宅療養におけるまでの経過に応じた薬物療法の実際とその支援）		
12	1. 退院および在宅療養に向けた薬物療法および在宅療養中における薬物療法の支援を紙上事例からグル	グループワーク	
13			

14	ープで学習し共有する。 (事例：・高齢患者の心不全 ・成人患者の悪性腫疾患等)		
15	筆記試験 (90 分)		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 吉岡充弘他：系統看護学講座、専門基礎分野、薬理学、疾病のなりたちと回復の促進〔3〕、医学書院。 2. 任和子他：系統看護学講座、専門分野Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護学〔3〕、医学書院。 3. 森恵美他：系統看護学講座、専門分野Ⅱ、母性看護学各論、母性看護学2、医学書院。 4. 奈良間美保他：系統看護学講座、専門分野Ⅱ、小児看護各論、小児看護学②、医学書院。 5. 吉田俊子他：系統看護学講座、専門分野Ⅱ、循環器、成人看護学③、医学書院。 6. 鳥羽研二他：系統看護学講座、専門分野Ⅱ、老年看護 病態・疾患論、医学書院。 7. 武井麻子他：系統看護学講座、専門分野Ⅱ、精神看護の基礎、精神看護学①、医学書院。
評価の方法	筆記試験 80 点 グループワーク 20 点
アドバイス ・その他	

授業科目	周手術期と看護	講師名	境 敏一	単位 1 単位	時期 2 年次前期
				時間 30 時間	
実務経験のある講師による授業科目		○	実務経験	看護師	
科目目標 1. 周手術期における身体侵襲と回復過程を理解する。 2. 対象に合わせた周手術期看護について理解する。 3. 周手術期の患者の特徴を理解し、術前・術後の経過マップを作成する。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 手術侵襲と生体反応 (第 1 章) 創傷治癒過程と管理、促進技術	講義	
2	2. 麻酔法と呼吸、体液、栄養管理 (第 3 章)	講義	
3	3. 周手術期看護の概要と看護師の役割 (第 6 章) 安全管理、感染予防	講義	
4	4. 手術前患者の看護 (第 7 章) 術前オリエンテーション 胸・腹式呼吸/咳嗽・喀痰喀出/呼吸訓練/離床指導	講義	
5	5. 手術中患者の看護 (第 8 章) 手術室における看護の展開と環境管理	講義	
6	6. 手術後患者の看護 (第 9 章) 術後合併症の発生機序 手術後の回復を促進するための看護 術直後の観察/ドレーンの挿入と観察 創管理/術後離床の実際 【演習: DIV/ドレーン挿入中患者の寝衣交換】 【演習: ドレーン挿入部の処置】 【演習: 胸・複式呼吸、咳嗽・喀痰喀出、離床】	講義 演習	
7			
8	7. 集中治療を受ける患者の看護 (第 10 章) 人工呼吸器の操作・管理 8. 手術を受ける高齢者の看護 (第 11 章) 術後せん妄スクリーニング、廃用症候群 【演習: 感染性廃棄物、無菌操作】 【演習: 胸腔ドレーンの管理】	講義 演習	
9			
10	9. 手術を受ける小児とその家族の看護 (第 12 章および臨床外科看護各論第 6 章 II 小児の外科患者の看護) 1) 小児のアセスメント 2) 年齢に合わせたインフォームド・アセント/プレパレーション 10. 帝王切開を受ける産婦の看護		

11	1 1. 対象に合わせた術前・術後マップ作成	グループワーク	
12			
13			
14	術前・術後マップ発表	プレゼンテーション	
15	筆記試験 (60分)		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>使用テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 矢永勝彦・芦塚修一他著：系統看護学講座 別冊 臨床外科看護総論 医学書院 2017. 2. 北島政樹・江川幸二他編著：系統看護学講座 別冊 臨床外科看護学各論 医学書院 2017. 3. 北川公子・荒木亜紀他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2018. 4. 奈良間美保・丸光恵他著：系統看護学講座 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 2020. 5. 森重美著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 2021. 6. 武井麻子著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院 2021.
評価の方法	筆記試験 60点 プロジェクト学習をルーブリック評価表で評価 40点
アドバイス・その他	学習したことを活用し、グループで協同しながら探究的・主体的に取り組むことを期待する。

授業科目	終末期と看護	講師名	田中享子 山崎敦子		単位	1 単位	時期	2 年次後期
					時間	30 時間		
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師				
科目目標 1. 身体的・精神的特徴を知り、その人らしい死について考える。 2. 死にゆく人やその周囲の人が望む死を迎えるための方法を考える。 3. 緩和ケア・死の受容プロセスをしり、終末期の看護の役割について理解する。 4. グリーフケアについて学習する。 5. 自己の死生観を深める。								

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	「死ぬ」ということについて	講義・個人ワーク グループワーク	田中
2	緩和ケアの現状と現状 緩和ケアにおけるチームアプローチ	講義	山崎
3	緩和ケアにおけるコミュニケーション 緩和ケアにおける倫理的課題	講義	山崎
4	全人的ケアの実践① 1, 身体的ケア 2, トータルペイン 3, 薬物療法と看護	講義	山崎
5	全人的ケアの実践② 1, 心理的ケア 2, 社会的ケア 3, スピリチュアルケア 4, 家族・遺族ケア	講義	山崎
6	死後の処置 死に関する習慣・風習 エンゼルケアの演習	講義 演習	田中
7	グリーフケア 看取り後の援助 ①死を迎えた人の周囲の人々へのケア ②看取りを行う看護師のケア	講義	田中
8	緩和ケアの広がり	講義 グループワーク 発表会	田中
9	それぞれの立場での終末期について考える。事例に		
10	ついて、「その人らしい死」をむかえるために、どの		
11	ような看取りをしたいか考える。場面設定を行い、終		
12	末期の援助の場面についてロールプレイで発表する		
13	・高齢の対象者とその周囲の人々の終末期について ・子供と配偶者がいる対象者の終末期について ・小児とその周囲の人々（家族）の終末期について ・一人暮らしの高齢者の終末期		

14	死生観（自己の死生観） 自分の生き方・死に方について考える GWをもとに自分の死生観をまとめてレポートする。 テーマ「人生の終わりをどのような形で迎えたか」 サブテーマ「今をどう生きるか」	グループワーク 個人ワーク (レポート提出)	田中
15	筆記試験（90分）		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 恒藤悟, 田村恵子他：系統看護学講座 別巻 緩和ケア第3版, 医学書院, 2021.
評価の方法	A+B=100点 A：70点=田中 (筆記試験30点、課題レポート20点、ポートフォリオ20点) B：30点=山崎 (筆記試験)
アドバイス ・その他	

授業科目	健康回復 支援論	講師名	柿沼伸枝	単位	1 単位	時期	2 年次 前期
				時間	30 時間		
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師			
科目目標 1. 健康回復に向けて各期にある対象の特徴を理解し、健康状態に応じた看護の考え方が分かる。 2. 急性期にある対象の症状及び看護の基本について理解できる。 3. 回復期にある対象の症状及び看護の基本について理解できる。 4. 慢性期にある対象の症状及び看護の基本について理解できる。 5. リハビリテーションの必要な対象の症状及び看護の基本について理解できる。 6. 看護師の退院支援方法について理解できる。							

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担当
1	1. 急性期・回復期・慢性期・リハビリテーション 2. 健康回復各期の対象	講義	
2	1. 健康の急激な破綻から回復を促す看護 (1)健康の急激な破綻の急性期の状態にある患者と家族の特徴 (2)急性期にある患者の看護 (3)救急医療を必要とする人々 2. 心理的・社会的危機の回復	講義	
3	1. 成人期の急性期の患者と家族の特徴 (1)急性期の特徴 (2)成人期の患者と家族の看護 2. 老年期の急性期の患者と家族の看護 (1)急性期の特徴 (2)老年期の患者と家族の看護 (3)急性期の合併症 (4)急性期入院の老年者のケアモデル 3. 急性期なる患児と家族の看護 (1)急性期の特徴 (2)患児と家族の看護 4. 精神症状のある患者と家族の看護 (1)発病前期の特徴 (2)急性期の特徴と患者と家族の看護 5. 日常生活行動の支援 (1)身体機能の悪化の早期発見	講義	
4	1. 回復期を経験している状態にある患者と家族の特徴 (1)身体機能回復の促進と機能拡大の予防	講義	
5	1. 生活行動の自立支援 2. 障害受容の支援 (1)障害受容の心理過程	講義・演習 個人事例課題学習 (成人、老年、小	

	<ul style="list-style-type: none"> 3. 成人期の回復期の患者と家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)回復期の特徴 (2)成人期の患者と家族の看護 4. 老年期の回復期の患者と家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)回復期の特徴 (2)老年期の患者と家族の看護 (3)回復期による合併症 5. 回復期にある小児と家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)回復期の特徴 (2)患児と家族の看護 6. 精神症状のある患者と家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)回復期の特徴 (2)精神症状のある患者と家族の看護 	児、精神の事例)	
6	<ul style="list-style-type: none"> 1. 社会的支持の獲得支援 	講義・演習 グループワーク	
7	<ul style="list-style-type: none"> 1. 慢性期を経験している状態にある患者と家族の特徴 2. 症状や異常の早期発見に着目した身体機能悪化予防と回復促進 	講義	
8	<ul style="list-style-type: none"> 1. 健康を脅かす要因と看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)健康バランス構成要素 (2)健康バランスに影響を及ぼす要因 <ul style="list-style-type: none"> ①廃用症候群 ②老年症候群 2. 慢性期疾患の治療と看護の基本 <ul style="list-style-type: none"> (1)慢性期の患者の理解 (2)慢性期疾患と共存を支える看護の実践 3. 成人期の患者と家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)慢性期の特徴 (2)成人期の患者と家族の看護 4. 老年期の慢性期の患者と家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)慢性期の特徴 (2)老年期の患者と家族の看護 (3)慢性期による合併症 5. 慢性期の小児と家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)慢性期の特徴 (2)患児と家族の看護 6. 精神症状ある患者と家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)慢性期の特徴 (2)精神症状のある患者と家族の看護 	講義・ 個人事例課題学習 (成人、老年、小児、精神に事例)	
9	<ul style="list-style-type: none"> 1. 症状の自己コントロールへの教育的支援 2. 疾病受容の支援 3. 社会的支持の維持支援 4. 慢性期にある患者と家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1)自己コントロールを維持する患者と家族を支援する看護 	講義	
10	<ul style="list-style-type: none"> 1. 障害がある人の生活とリハビリテーションの特徴 	講義	

	(1)障害がある人とリハビリテーション (2)障害がある人とその生活を支援する看護 2. 障害に対する受容と適応への看護 3. リハビリテーション開始前・中・後の看護 4. 高齢者におけるリハビリテーションにおける留意点		
11	1. 経過別リハビリテーション 2. チームアプローチと社会資源の活用 3. 包括的リハビリテーションと社会参加 4. 移乗支援機器	講義・演習 個人事例課題演習 グループワーク	
12	1. 退院支援の必要性と退院支援看護師の役割 2. 入院前の退院支援に必要な情報把握 (1)スクリーンシートでの情報収集の仕方 3. 患者・家族の意向 4. 入院時オリエンテーション 5. 多職種連携入院時カンファレンス 6. 退院後を見据えた患者・家族のケア 7. 退院計画と看護 (1)退院支援の必要な対象の把握 (2)退院支援の特徴と留意点 8. 退院支援計画と各種制度・サービス・多職種連携 9. 退院前訪問、試験外泊の実施	講義	
13	1. 退院支援の実際 小児、成人、老年、母性、精神、地域・在宅の事例を課題学習する。	個人事例課題演習	
14	1. 退院支援個人事例課題発表 2. 退院支援についてのまとめ	個人事例課題演習 グループワーク・ プレゼンテーション	
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学①，医学書院，2021. 2. 小松浩子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学概論 成人看護学①，医学書院，2021. 3. 北川公子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学，医学書院，2021. 4. 奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学総論 小児看護学①，医学書院，2001. 5. 宇都宮宏子他：退院支援ガイドブック，学研，2021. 電子書籍を活用する。 参考文献 1. 宮崎和子他：改訂版 観察のキーポイント 精神科Ⅱ，中央法規，2021. 2. 落合慈之他：リハビリテーション ビジュアルブック 第3版，学研，2021.
-------	---

評価の方法	筆記試験 80 点 課題レポート 10 点 グループワーク・ループリック評価 10 点
アドバイス ・その他	基礎看護学概論、地域と暮らし、成人看護学概論、老年看護学概論で学んだ学習を想起させて、個人課題を電子図書を活用して行う。授業毎にリフレクションノートに記載し、疑問点については講義時にコメントする。

授業科目	臨床判断	講師名	田邊 弓 全教員	単位 1単位 時間 30時間	時期 2年次後期
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師		
<p>科目目標</p> <p>1. 臨床判断モデルの構成要素である「気づき」「解釈」「反応」「省察」に基づいて、「看護師のように考える」ことを目指す。</p> <p>2. 観察をして気づき、知識を活用してそれを解釈し、とるべき看護行動を決め、行動した一連のプロセスを省察する。</p>					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1 2 3 4	<p>1. 臨床判断とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床判断能力について ・看護師の役割 ・看護師臨床判断プロセス ・対象の理解 <p>2. 気づきから解釈をして反応する 臨床判断モデルの構成要素である「気づき」「解釈」「反応」「省察」に基づいて、「看護師のように考える」ことを目指す。まずは気づきやすい症状を提示するので、看護師として何をするのか考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 主要症状に気づくー①（高齢者のケース） (1) 発熱 (2) 呼吸苦 2) 主要症状に気づくー②（成人のケース） (1) 胸痛 (2) 浮腫 3) 主要症状に気づくー③（地域・在宅のケース） (1) 下痢・便秘 (2) 吐血・下血 4) 精神疾患の方の「いつもと違う」を感じる場面（精神のケース） 5) 子どもが「いつもと違う」と感じる場面（小児のケース） 6) 妊産褥婦の「いつもと違う」という訴え（母性のケース） <p>3. まとめ 「看護師のように考える」 「気づき」→「解釈」→「反応」→「省察」</p> <p>4. 以降の事例展開の進め方の理解</p>	講義	田邊
5 6 7 8 9	<p>5. 臨床判断に基づくシミュレーション学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 事例1について <ul style="list-style-type: none"> (1) シミュレーション課題の取組み (2) デブリーフィングとまとめ 	グループ演習	全 教員

10	1) 事例2について	グループ演習	
11	(1) シミュレーション課題の取組み		
12	(2) デブリーフィングとまとめ		
13			
14			
15	まとめ（レポートを作成する）テーマは当日提示する		田邊

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 事例にあわせて、テキストや授業資料を自分で選択して使っていくこと。 ※テキストは各領域を含むので、電子書籍を中心に活用する。
評価の方法	100点 ※レポート40点、2事例のルーブリック評価60点（各30点）
アドバイス ・その他	1. 基礎看護学の「共通基本技術Ⅲ」・「フィジカルアセスメント」の積み上げ学習となります。 2. グループ演習・デブリーフィングでは、自由に意見を出してください。何を言ってもよい、間違えからの新たな気づきがあった、と思えるような、達成感のある学修活動にしていきましょう。

授業科目	看護過程の展開	講師名	森本深青子 山根美智子 井上南子 福岡真利奈 全教員	単位 1 単位	時期 2 年次前期
				時間 30 時間	
実務経験のある講師による授業科目		○	実務経験	看護師	
科目目標 1. 各発達段階の対象の看護を実践するための基盤となる思考過程を理解する。 2. 看護の対象を全体的な存在として捉え、科学的な知識に基づいた看護実践方法を理解する。					

授業内容と方法

回数	授業内容	方法	担当
1	1. 看護過程とは 看護の基盤となる考え方 (1)問題解決思考 (2)クリティカルシンキング (3)リフレクション (4)看護学概論との関連	講義 ディスカッション	森本
2	1. 看護過程の各段階 章末資料参照 (1)アセスメント (情報の収集と解釈・判断) 対象の捉え方 ・病態像・生活像・人間像の3側面と、6つの生活行動 (活動・休息・食事・排泄・身じたく・コミュニケーション)、生活行動やその人らしさに影響を及ぼす疾患関連情報の視点を加えて対象を捉える。 (2)全体像の把握 (関連図) (3)看護問題の明確化 (4)看護計画の立案 (5)看護計画の実施・評価	講義	森本
3	1. 看護記録 (1)看護記録とは (2)記載・管理における留意点 (3)看護記録の構成 基礎情報、看護計画、経過記録 (SOAP) 看護サマリー	講義	森本
4	事例提示	(1)～(4)までを個人ワーク グループ内発表 ディスカッション	全教員
5	(1)ビジョンとゴールの設定		
6	ポートフォリオを作成 (活用) しながら進めて行く		
7	(2)情報収集とアセスメント		
8	(3)全体像の把握 (関連図)		
	(4)看護問題を明確にし、優先順位を決定		
	(5)看護問題発表		

9	1. 看護目標の設定と看護計画立案	個人ワーク	
10	1. 看護計画の発表と実践	グループ内発表 グループごとに一場面を選んで実践準備 実践発表、その後グループワーク	
11	2. 看護実践の記録・評価 (SOAP)		
12	3. サマリー作成		
13	精神看護学の看護過程 捉え方の特徴について	講義	山根
14	母性看護学・小児看護学の看護過程 捉え方の特徴について	講義	井上 福岡
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 第 18 版, 医学書院, 2021. 2. 石川ふみよ他：看護過程の解体新書 学研メディカル秀潤社, 2015. 3. 山口瑞穂子他：経過がみえる疾患別病態関連マップ 第 2 版, 学研メディカル秀潤社, 2016. 4. 山口瑞穂子他：疾患別看護過程の展開 学研メディカル秀潤社 第 6 版 2020. <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 金井一薫：ナイチンゲールの『看護覚え書』イラスト・図解でよくわかる 西東社, 2014. 2. ヴァージニア・ヘンダーソン著, 湯槇ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 2016.
評価の方法	<p>筆記試験 65 点 ループリック評価表を用いての評価 35 点</p>
アドバイス ・その他	<p>・個人ワークで事例についてアセスメントを行い、その後、グループワークを中心に学習を進める。主体的に学習が進められるようグループで学習計画を立てる。</p>

3.専門分野－3) 教授内容

(3) 地域・在宅看護論

地域・在宅看護論の構築の考え方

地域・在宅看護は、あらゆる健康レベル、あらゆるライフステージにある人々とその家族等、地域に暮らす全ての人を対象としている。少子化・超高齢社会、医療の高度化・専門化、在院日数の短縮化などにより、在宅医療・看護に対する社会のニーズは高まり、看護師の活動は地域の人々が暮らすあらゆる場に拡大している。

地域・在宅看護論は、療養者の地域生活や暮らしに応じた看護の提供の理解が行え、地域で暮らす人々とその家族の健康と暮らしが継続できるよう支援する能力を養うことを目的としている。そのため、段階的に分けて学習を行う必要があるために、地域と暮らし、地域・在宅看護概論Ⅰ・Ⅱ、地域・在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱに分けて構成した。地域と暮らしでは、地域で暮らす人々や暮らしぶりは多様であること、地域の生活環境や暮らしぶりが健康に影響することを学ぶ。暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響について理解する。地域・在宅看護概論Ⅰでは、地域・在宅看護の理念と目的、変遷及び現状、地域の保健・医療・福祉活動について学ぶ。実際については、看護師の主たる活動である訪問看護について理解する。地域・在宅看護概論Ⅱでは、対象者とその家族の特徴や家族の意義や介護上の役割について、地域・在宅看護の視点をふまえて理解する。さらに、生命の尊厳や人間尊重を基本に、対象者の人権の保障と在宅看護における倫理的問題について理解する。地域・在宅看護方法論Ⅰでは、生活の場で看護を展開するために必要な看護技術を学ぶ。地域・在宅看護に必要な技術は、療養環境の整備から生活行動の直接的援助に伴う支援技術、医療処置に伴う支援技術、家族への介護指導とその範囲は広い。対象者の生活背景や暮らしに応じて様々であり、その場でアセスメントをして必要な技術を提供することが求められるため、生活環境や暮らしを考慮し、基礎看護技術を応用した看護技術について演習を通して理解する。地域・在宅看護方法論Ⅱでは、対象者の背景や疾患・障害の経過に応じた看護の実際を学ぶ。看護の提供方法の学習は、事例を通して、療養環境ならびに家族背景などの対象の暮らしを考慮し、疾患の経過や主要症状を捉えた上で、その人がその人らしく地域で療養できるよう状況に応じた看護の検討と援助方法について理解する。

在宅医療に対するニーズが増大している今日、在宅看護活動の重要な役割を担う看護職の役割と責任は拡大し、これまで以上に的確な判断力と技術力に加え、対人関係能力、倫理的判断能力、また多職種との調整力が求められている。地域・在宅看護論では地域で暮らす人々、そして地域で療養する人々に対応できる臨床看護能力や社会福祉に関する知識や保健・医療・福祉の調整について学ぶものとする。

地域・在宅看護論 目的・目標

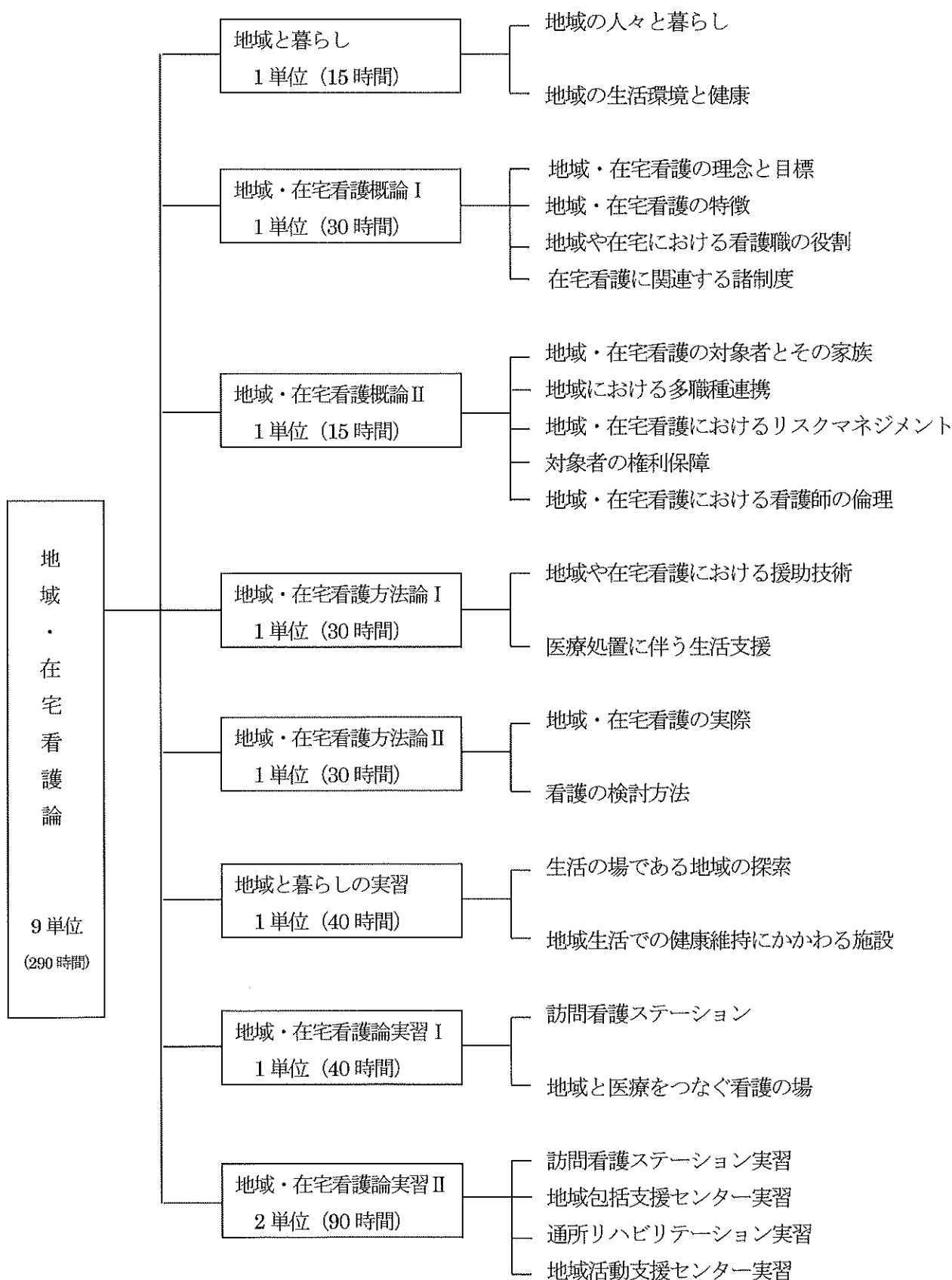
目的

地域で生活するすべての人々を対象とし、対象がセルフケア能力を高めるための支援、およびその人がその人らしく住み慣れた地域で療養生活を継続できるニーズに基づく支援方法を学ぶとともに、社会資源の活用とそのための調整の必要性や、地域における保健・医療・福祉における看護の役割を理解する。

目標

1. 地域・在宅看護の変遷と現状を踏まえ、看護の役割を理解する。
2. 地域・在宅看護における対象者を理解できる。
3. 地域で療養する人の望む生活を支えるための社会資源の活用方法が理解できる。
4. 在宅看護における保健・医療・福祉の連携や調整について理解できる。
5. 基本的な看護技術を応用し、暮らしの場で行われる援助技術の工夫について理解できる。
6. 地域で生活する人々に対して提供される看護の提供方法について理解できる。

地域・在宅看護論の構成と科目のねらい



授業科目	地域と暮らし	講師名	降旗 幹子	単位 1単位 時間 15時間	時期 1年次前期
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師・保健師		
科目目標 1. 人々の暮らしの多様性を理解する。 2. 暮らしの基盤としての地域の理解をする。 3. 地域の生活環境が健康に与える影響を理解する。 4. 暮らしと健康を支えるための支援と看護を理解する。 5. 地域の暮らしをみる視点を理解し、地域の探索ができる。					

授業内容と方法

回		授業内容	方法	担当
1	4/12 (火)	地域・在宅看護を学ぶ背景・ガイダンス 暮らしということ 1. 暮らしと生活 2. 暮らしと看護の役割	講義 ディスカッション 「自分の暮らしとは」	降旗
2	4/19 (火)	暮らしと健康 1. 健康とは 2. 暮らしの健康の課題	講義 ディスカッション 「健康増進取組み」	降旗
3	4/26 (火)	暮らしの基盤としての地域 1. 地域とは 2. 地域の理解 3. 地域包括ケアシステム 4. 自助・互助・共助・公助	講義 ディスカッション 「自分の住んでいる地域はどんなところでしよう」	降旗
4	4/26 (火)	I. 暮らしを支えるための看護 1. 地域・在宅看護の対象 2. 暮らしと健康を支えるしくみ II. 人々が暮らす地域を理解する① 1. 地域の暮らしを理解する視点 地域探索・聞き取り・既存資料 3. グループワーク：地域探索の説明	講義 フィールドワーク準備	降旗
5	5/11 (水)	人々が暮らす地域を理解する② 地域の探索「学校周辺を歩いてみよう」	グループワーク フィールドワーク	降旗
6	5/11 (水)	人々が暮らす地域を理解する③ 地域の探索「学校周辺を歩いてみよう」	グループワーク ポスター作成	降旗
7	5/18 (水)	人々が暮らす地域を理解する④ 地域の探索「学校周辺を歩いてみよう」	プレゼンテーション ポスターツアー	降旗
8	5/25 (水)	筆記試験		降旗

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 河原加代子他：系統看護学講座 地域・在宅看護論 I，医学書院，2022.
-------	---

	<p>河原加代子他：系統看護学講座 地域・在宅看護論Ⅱ, 医学書院, 2022.</p> <p>参考書：</p> <p>渡辺裕子監修：地域・在宅看護論第5版, 日本看護協会出版社, 2021.</p> <p>池西静江編著：基礎からわかる地域・在宅看護論, 照林社, 2021.</p> <p>河野あゆみ編著：地域・在宅看護論, メヂカルフレンド, 2021.</p> <p>佐伯和子他：地域アセスメントガイド第2版, 医歯薬出版株式会社, 2018.</p>
評価の方法	筆記試験 70 点 グループワーク 30 点
アドバイス ・その他	<p>アドバイス：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域と暮らしの実習」では、本講義で学習した内容を確認・実践し、看護の対象を生活者としてとらえる視点を更に確実としていきます。 ・地域で暮らす人々の様子を学び、今後の看護支援にも活かす。 <p>グループワーク；</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の学校周辺のフィールドワークをする。地域を探索する視点を基にまとめ、ポスターツアーによる発表をしていく。

授業科目	地域・在宅 看護概論 I	講師名	降籐 幹子	単位	2 単位	時期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師・保健師		
科目目標 1. 地域・在宅看護を取り巻く社会背景を基に、在宅看護の理念と目的が理解できる。 2. 地域・在宅看護の実際を踏まえて、地域・在宅看護の位置づけ・特徴が理解できる。 3. 地域・在宅看護での療養者、家族の支援のあり方を理解し、地域・在宅看護を実践する看護職の役割が理解できる。 4. 地域や在宅で療養する人々を支える社会資源の種類や関連する保健・医療・福祉制度及び訪問看護制度について理解できる。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	地域・在宅看護の目的と特性 ・在宅看護を取り巻く状況 ・在宅看護とは・在宅看護の特徴 ・在宅看護の機能 ・在宅看護の提供される場	講義	降籐
2	地域・在宅看護の対象者	講義	降籐
3	地域における暮らしを支える看護	講義	降籐
4	地域・在宅療養への支援 ・地域・在宅看護の提供方法 ・療養の場の移行 ・入退院時の連携	講義	降籐
5	地域での暮らしを支えるケアシステム ・在宅と地域における多職種連携 ・在宅ケアシステムを構成する要素 ・地域包括ケアシステムの構築 ・療養の場の移行	講義	降籐
6	地域で暮らす療養者とその家族 在宅看護の中の家族の特性	講義	降籐
7	1. 在宅医療を支える社会資源と活用方法	講義	上杉
8	2. 仕組みとサービス利用の手続き		
9	3. ケアマネジメント		
10	4. 介護サービスの種類と内容		
10	5. 関係職種との連携		
11	訪問看護制度 ・在宅看護に関連する法 ・訪問看護システム	講義	降籐
12	訪問看護サービス ・訪問看護サービスの特徴と規定 ・訪問看護ステーションの利用方法	講義	降籐

13	介護診療 訪問看護と訪問診療	個人ワーク	降簇
14	個人発表	プレゼンテーション	降簇
15	筆記試験 (90分)		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	<p>テキスト：</p> <ol style="list-style-type: none"> 河原加代子編著「地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤」医学書院, 2022年 河原加代子編著「地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践」医学書院, 2022年 押川真喜子監修「訪問看護アドバンス」インターメディカ, 2019年
評価の方法	<p>A+B=100点 A：70点=降簇（試験50点、課題20点） B：30点=上杉（筆記試験）</p>
アドバイス ・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイス： この科目は、1年生までに学習してきた地域と暮らしとその実習の続編となります。理學んできたことをよく復習しておいておくこと。 ・授業のフィールドバック： 授業ごとにリフレクションシートを記載し、疑問点については次回の講義時にコメントする。

授業科目	地域・在宅 看護概論Ⅱ	講師名	降籐 幹子	単位 1単位	時期 2年次前期
				時間 15時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師・保健師・社会福祉士	
科目目標 1. 在宅看護の対象者の特性及び支援のあり方について理解できる。 2. 在宅看護の対象者の家族の特性及び支援のあり方について理解できる。 3. 在宅看護におけるリスクと安全確保について理解できる。 4. 在宅看護の対象者の権利保障について理解できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	地域・在宅における日常生活を支える援助 課題：地域・在宅看護の活動を支えるコミュニケーションについて	講義	降籐
2	地域・在宅看護におけるリスクへの支援 ・在宅看護における感染対策 ・在宅療養者や家族への災害時の支援	講義	降籐
3	地域・在宅看護の倫理的問題 ・看護者の倫理規定	講義	降籐
4 5	人権の権利保障 ・基本的人権と個人の尊厳 ・自己決定権、インフォームド・コンセント ・個人情報保護・成年後見制度 ・高齢者の虐待の防止	講義	上杉
6	『地域・在宅療養における看護職の役割』	講義 グループワーク	降籐
7	報告	グループワーク	降籐
8	筆記試験 (90分)		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 河原加代子編著「地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤」医学書院, 2022年 2. 河原加代子編著「地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践」医学書院, 2022年 3. 押川真喜子監修「訪問看護アドバンス」インターメディカ, 2019年
評価の方法	A+B=100点 A：75点=降籐（筆記試験50点、グループワーク25点） B：30点=上杉（筆記試験）
アドバイス ・その他	・アドバイス： この科目は、1年生までに学習してきた地域と暮らしとその実習の続編となります。理學んできたことをよく復習しておくこと。 ・授業のフィールドバック：

	授業ごとにリフレクションシートを記載し、疑問点については次回の講義時にコメントする。
--	--

授業科目	地域・在宅 看護方法論 I	講師名	田中 享子 林田 るみ子	単位 1単位	時期 2年次後期
				時間 30時間	
実務経験のある 講師による授業科目	○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 地域・在宅看護を展開するために必要な基本的な援助技術を理解できる。 2. 地域・在宅療養の特性を踏まえ、対象の生活の質の向上を目指した援助方法を理解できる。					

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	1. 地域・在宅療養を支える援助技術① 2. 訪問時のマナー・コミュニケーション	講義 演習	田中
2	在宅で看護を提供するための技術の実際	グループワーク	田中
3	1) 在宅における援助技術	演習	
4	① 食事		
5	② 入浴		
6	③ 全身清拭・陰部洗浄		
	④ 移動動作・機能訓練		
	⑤ 内服管理の工夫、指導		
7	2) 援助技術のグループ発表と検討会	発表会	
8			
9	1. 地域・在宅療養を支える援助技術② 1) 膀胱留置カテーテル管理と交換 2) 経管栄養、胃瘻を挿入している人への援助	講義	田中
10	1. 在宅における援助技術のまとめ (凝縮ポートフォリオ作成)	個人ワーク	田中
11	1. 医療処置に伴う看護・生活支援	講義	林田
12	1) 在宅酸素療法 (HOT)		
13	2) 在宅人工呼吸療法 (HMV)		
14	3) 非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV)		
	4) 疼痛管理		
	5) 在宅中心静脈栄養法 (HPN)		
	6) 褥瘡ケア		
	7) ストーマケア		
15	筆記試験 (30分)		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 河原加代子編著：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ第1版，医学書院，2022年 2. 河原加代子編著：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ第1版，医学書院，2022年 3. 押川真喜子監修「訪問看護アドバンス」インターメディカ，2019年 4. いとう総研編：社会保障制度指さしガイド 2020
-------	---

評価の方法	A+B=100 点 A : 70 点=田中 (提出物：ポートフォリオ、凝縮ポートフォリオ等 70 点) B : 30 点=林田 (筆記試験)
アドバイス ・その他	基礎看護学で学んだ看護技術をもとに、地域で暮らす人々の視点を取り入れて学習を進めていく。

授業科目	地域・在宅 看護方法論 Ⅱ	講師名	田中享子 川上智之	単位	1 単位	時期 2 年次後期
				時間	30 時間	
実務経験のある 講師による授業科目		○	実務経験	看護師		
科目目標 1. 地域や在宅で療養する対象の疾患や障害にあわせた看護を理解できる。 2. 地域や在宅で療養する対象にとって必要な福祉機器の実際を知る。 3. 地域・在宅看護を必要とする対象の特性を考慮した看護の検討方法を理解できる。						

授業内容と方法

回数	授 業 内 容	方 法	担 当
1	1. 地域・在宅看護の実際① 1) 認知症のある対象への援助	講義	田中
2	1. 地域・在宅看護の実際② 1) 癌疾患のある対象への援助 2) ターミナル期を迎えた対象への援助	講義 グループワーク	田中
3	1. 地域・在宅看護の実際③ 1) 難病のある対象への援助	講義	田中
4	1. 地域・在宅看護の実際④ 1) 長期臥床状態にある対象への看護	講義・演習 グループワーク	田中
5	1. 地域・在宅看護の実際⑤ 1) 精神障がいのある対象への援助	講義	川上
6	1. 地域・在宅看護の実際⑥ 1) 小児の療養者に対する援助	講義	川上
7	1. 地域・在宅看護の実際⑦ 1) 感染症のある対象への援助 2) 地域や在宅での感染管理	講義	田中
8 9	1. 残存機能を生かし ADL 維持・拡大を促すための福祉用具の実際を知る	福祉機器展見学・体験	田中
10 11 12 13 14	1. 地域・在宅看護における対象理解の特徴 1) 事例提示と説明 2) 記録方法 2. 状況に応じた看護の検討 1) 情報収集 2) アセスメント 3) 対象の課題抽出 3. まとめ	講義・個人ワーク	田中
15	筆記試験		

テキスト・評価方法・留意点等

テキスト等	テキスト： 1. 河原加代子編著：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ第1版, 医学書院, 2022年 2. 河原加代子編著：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ第1版, 医学書院, 2022年 3. 押川真喜子監修「訪問看護アドバンス」インターメディカ, 2019年 4. いとう総研編：社会保障制度指さしガイド 2020
評価の方法	A+B=100点 A：85点＝田中（筆記試験50点、個人ワーク・レポート・提出物：35%） B：15点＝川上（筆記試験）
アドバイス ・その他	生活者の視点を持ち、看護について考えていく。